

# 「シーガー使って今日も快釣」 鈴木新太郎のワンポイントアドバイス

★「ドラゴン狙いに限らず、タチウオにはバイトリーダーを付けたほうが安心です。テンヤ釣りに限らず、テンビン、ルアー全般にいえます。ただし、オマツリが多発するようなどきには外したほうがいいですよ」と2人は口をそろえる。

タチウオの鋭い歯でライン切れを防ぐのがバイトリーダー。太さは16~18号あれば安心とのこと。消耗の激しい部分なので、船上でも手早く結べるよう慣れておきたい。

●2人も道糸は信頼のシーガーPEX8、1.5号を使用



▲例によって出船前にシステムを組む鈴木さん  
▼このサイズでもバイトリーダーがザラザラになることもあった



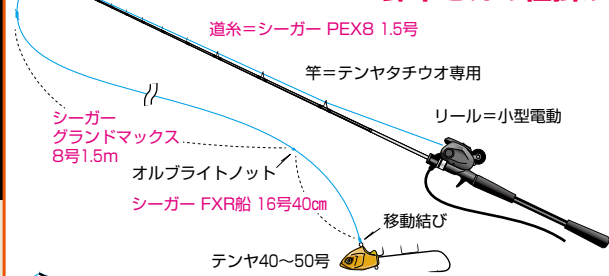
●鈴木さんはグランドマックスにシーガーFXXR船、吉岡さんはグランドマックスFXにプレミアムマックスショックリーダーの組み合わせ



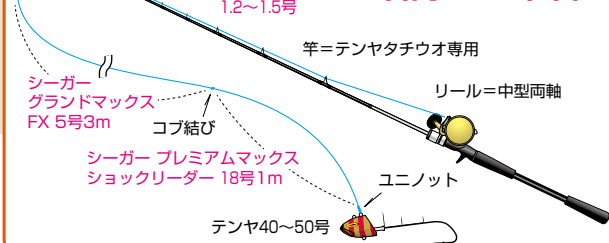
吉岡さんの組み合わせ

鈴木さんの組み合わせ

## 鈴木さんの仕掛け



## 吉岡さんの仕掛け



※コブ結び=バイトリーダーの先にコブ(焼きコブでも可)を作って、リーダーを巻き付ける結び方

「釣り方に迷いすぎました」と吉岡さんは反省し、それでも次回の釣行につなげる引き出しを増えたようで、笑顔で帰還する2人だった。



イブレーションさせ、ステイ直後にアタリをとらえ、同級をキャッチする。朝のうちは好調に見えたが、船中でもアタリは散発的。サイズもよくて1メートルで、ドラゴンは不在。予想外に潮が動いていないのが原因のようだ。2時間ほど釣って、船長は観音崎沖への移動を告げる。

船長によれば反応もビッシリ、さあいいよドラゴン祭りの始まりかと思っただが、何が気にならないのか状況は好転しない。そんな中でも2人はなんとか答えを引き出そうと、手を替え品を替え釣り続ける。

「イブレーションのあと、ステイの時間を長めに取るというみたい」と鈴木さんのアドバイスでようやくエンジン始動。ところが時すでに遅く、数本を追加したところで無念のタイムアップを迎える。

船中では120センチ級が1本出たほかは、1メートル弱がメイン。 कारणうじて鈴木さんが7本で竿頭だった。

「釣り方に迷いすぎました」と吉岡さんは反省し、それでも次回の釣行につなげる引き出しを増えたようで、笑顔で帰還する2人だった。



## Challenge #81 三浦半島 京急大津港出船

★中盤からベースに乗ってきた鈴木さん。秘訣はステイにあった



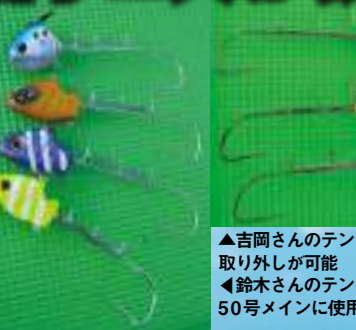
●1メートル前後がメインだった

指幅3本級の中型だった。潮回りしての投入で竿を曲げたのはジャーク&ステイを繰り返していた吉岡さんだった。上がったのは90センチ級ながら、まずはひと安心の表情。これを見ていた鈴木さんも黙ってはいない。激しくバ

# 釣れる釣れる 釣れる釣れる 釣れる釣れる



## 鈴木新太郎、吉岡進 東京湾のテンヤタチウオ 名手2人が気難し屋に苦戦



▲吉岡さんのテンヤはハリの取り外しが可能  
▲鈴木さんのテンヤ、当日は50号メインに使用

乗船したのは三浦半島京急大津港のいな丸。タチウオ乗合はテンビン、テンヤ釣りのいずれも挑戦可能だが、どちらかといえばテンヤ釣りファンが多い船宿だ。この日も14名の乗船者のうち12名がテンヤ釣りだ。

タチウオ、とくにドラゴンサイズはどんな釣り方であってもハリス(リーダー)切れ対策が必須。図にあるとおり、2人ともリーダーの先に付けるバイトリーダーで防御している。

「せっかくの大物をバラしたくありませんからね」と言いながら、いつものように船上でラインシステムを組み始める鈴木さんだった。

7時15分に出船し、10分も走ればもう釣り場。水深70メートル前後、55~65メートルのタナ指示で釣り開始となった。鈴木さんはイブレーションにステイを入れる釣り方、吉岡さんはジャーク、ストップ&ゴーなどさまざまな釣り方で様子を見る。

海上はナギ、絶好の釣り日和だが、なかなかアタリはこない。まず竿を曲げたのはテンビン組。潮回りしての投入で竿を曲げたのはジャーク&ステイを繰り返していた吉岡さんだった。上がったのは90センチ級ながら、まずはひと安心の表情。これを見ていた鈴木さんも黙ってはいない。激しくバ



▲早々に掛けた吉岡さん。以後は気まぐれタチウオに翻弄される

▲苦労の末に掛けた1本、このポーズが物語っている

●シーズンの狭間に入った東京湾のタチウオだが、日により釣果に差も出る難しい時期。もちろん鈴木新太郎、吉岡進の名手2人も心得の釣行で、今回は両氏ともテンヤ釣りでドラゴン捕獲を目指した。ナギの釣り日和ではあったが、この日も気難し屋の本領を発揮する。